

◆佐渡金銀山の情報をお伝えします



佐渡金銀山だより

Sado Gold and Silver Mine Newsletter



「佐渡金銀山だより」を
創刊いたしました。

Vol.1
2010.3.31

どうゆう わりと
◆道遊の割戸

あおやぎ
道遊の割戸は、江戸時代には「青柳の割戸」とも呼ばれ、佐渡金銀山を象徴する巨大な露頭掘りの跡です。深さ74メートル、最大幅30メートル。日本国内でも最大規模のものです。平成6年(1994)に国史跡に指定されました。

Sado Gold and Silver Mine Newsletter **創刊号** INDEX

- 2 …… ごあいさつ
- 3 …… 今、なぜ世界遺産なのか
- 4～5 特集 国指定史跡佐渡金山遺跡「旧佐渡鉱山の施設群」
- 6 …… 調査・整備情報 「旧佐渡鉱山の近代遺跡」を整備しました 他
- 7 …… 国際シンポジウム「絵巻から見える佐渡金銀山」
- 8 …… 平成21年度の活動状況 他



発刊にあたって

新潟県知事 泉田 裕彦

新潟県と佐渡市では、平成18年度から共同で佐渡金銀山遺跡の世界遺産登録に取り組んでいます。平成20年9月には、国の世界文化遺産特別委員会で世界遺産としての顕著な普遍的価値をもつ可能性が高い資産とされ、世界文化遺産の国内候補に選定されました。

現在、県と佐渡市では、構成資産の国文化財指定のための調査や、産出された金や銀が国内外に与えた影響に関する研究などの取組を行っております。今後も世界遺産登録に向け、着実に歩みを進めてまいります。

さて、世界遺産登録を目指すには、県民の皆様に佐渡金銀山遺跡の世界的価値をご理解いただき、登録への気運を高めていくことが大切であると考えます。

この度発刊される「佐渡金銀山だより」は、そのための情報発信を行うものであり、今まで県・佐渡市が行ってきた調査・研究の成果のほか、関連事業の内容、地域の人々の活動など、登録に向けた取組を掲載したいと考えております。

本紙が佐渡金銀山遺跡への理解を深め、県民挙げての世界遺産登録の推進に大きな役割を果たすことを祈念して、発刊のごあいさつといたします。



未来へ伝える宝もの

佐渡市長 高野宏一郎

佐渡の長い歴史の中で生まれ育まれてきた文化や伝統は、佐渡市民の誇りであり、次の世代へ伝えていくべき大切な宝ものです。

私たちが進める佐渡金銀山の世界遺産登録への取組は、この貴重な郷土の財産を皆様により身近に感じてもらい、もっと知っていただくことから始まるのではないかと考えております。地域はもとより、県民が一体となって佐渡金銀山を守り伝えていくという意識を高めることが、魅力と活力に溢れる地域づくりにつながっていくものと確信しております。

佐渡市では、平成21年度から世界遺産推進課を新設し、登録推進のための調査・研究をさらに促進するとともに、それらの成果などを広く内外に伝え、佐渡金銀山の価値を再認識していただけるよう努めてまいりました。

新たに創刊する「佐渡金銀山だより」もそうした取組の一環であり、情報発信は言うに及ばず、登録に向けたさらなる気運の盛り上がりにも資することを期待しております。ぜひご愛読いただき、佐渡金銀山の魅力と価値を知っていただければ幸いです。

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」は、世界中の顕著で普遍的な価値のある文化遺産・自然遺産を人類共通の宝ものとして守り、次世代に伝えていくことの大切さをうたっている国際条約です。我が国は1992年に締結し、2010年3月現在で11件の世界文化遺産と3件の世界自然遺産が登録されています。

今、なぜ世界遺産なのか

佐渡市世界遺産推進課

日本海に浮かぶ佐渡は、豊かな自然と歴史が残る島として知られてきました。中でも佐渡金銀山は、平安時代から平成元年まで長期間にわたって金銀の採掘が行われた我が国を代表する鉱山で、その歴史を物語る鉱山遺跡や関連する文化財が島内各所に数多く残っています。

私たちは、この貴重な佐渡金銀山を日本の宝として永く守り伝えていくことを目指して、世界文化遺産への登録運動を進めています。

地域の人たちとの話し合いの場では、「世界遺産に登録されると何かいいことがあるの?」「佐渡は本当に世界遺産になる価値はあるの?」といった意見が聞かれます。日本には14件の世界遺産が存在し、伝えられるニュースでは観光客増加やそれによる経済効果などに目を奪われがちですが、世界遺産を目指す本来の意義は何なのでしょう。世界遺産とは「現代を生きる世界すべての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の宝もの」と説明されていますが、それは単に目に見えるものを残すだけでなく、過去の歴史・文化の上に立って今の私たちがあることを理解し、より

よい未来を探究するためのきっかけと考えます。

佐渡では今、トキや天然林など自然保護に関する意識も高まっており、世界遺産を目指す活動と併せて地域本来の価値やすばらしさを認識し、これからの地域づくりに活かしていくべきで、それが結果として交流人口の拡大やよりよい環境の創出につながるものと期待します。

本紙では、佐渡金銀山の世界遺産登録に関連する様々な情報を年2回の刊行で紹介していくつもりですが、皆様からのご意見・ご要望もとり入れながら、より内容のあるものにしていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。



「佐渡銀山往時之稼行絵巻」に描かれた道遊(青柳)の割戸

◆佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会

佐渡市では、佐渡金銀山の世界遺産登録に関連する文化財の調査・研究、保存・活用などについて、指導及び助言をいただき世界遺産登録の推進を図ることを目的に、平成20年度から関連分野の学識経験者13名による「佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会」を設置しています。

委員会では、文化財保存・考古・建造物・景観・鉱山・地質など様々な専門分野の視点から、事業の基本方針や計画を決定していますが、遺跡・建造物及び文化的景観については、委員会の下部組織として「金銀山遺跡・建造物調査整備専門部会」(委員10名)と「文化的景観調査専門部会」(委員6名)を置き、より具体的な内容を検討しています。

訃報

石瀬佳弘委員におかれましては、去る3月11日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、故人のご冥福をお祈りいたします。

委員名簿

No.	氏 名	所 属 等	専門部会
1	石 瀬 佳 弘	佐渡市佐渡学センター所長	遺跡・建造物
2	川 北 鎮 雄	元三菱マテリアル取締役	
3	岡 崎 篤 行	新潟大学工学部准教授	文化的景観
4	篠 原 修	政策研究大学院大学教授 (東京大学名誉教授)	文化的景観
5	庄 谷 邦 幸	大阪市公文書館長 (桃山学院大学名誉教授)	
6	鈴 木 一 義	国立科学博物館理工学研究部 科学技術史グループ長	遺跡・建造物
7	田 中 哲 雄	前東北芸術工科大学教授	遺跡・建造物
8	永 松 武 彦	株式会社ゴールデン佐渡取締役相談役	遺跡・建造物 文化的景観
9	中 村 賢 二 郎	学校法人杉野学園理事長	
10	萩 原 三 雄	帝京大学山梨文化財研究所長	遺跡・建造物
11	益 田 兼 房	立命館大学歴史都市防災研究センター教授	遺跡・建造物 文化的景観
12	村 上 隆	京都国立博物館保存修理指導室長	遺跡・建造物
13	山 本 修 巳	佐渡市文化財保護審議会長	
専門部会委員			
14	木 村 勉	長岡造形大学教授	遺跡・建造物
15	黒 野 弘 靖	新潟大学工学部准教授	遺跡・建造物
16	田 中 圭 一	元筑波大学教授	遺跡・建造物
17	池 田 哲 夫	新潟大学人文学部教授	文化的景観
18	堀 健 彦	新潟大学人文学部准教授	文化的景観

*任期:平成20年6月26日～平成22年6月25日

国指定史跡 佐渡金山遺跡

「旧佐渡鉱山の施設群」

佐渡金山遺跡は、近世から近代にかけて徳川幕府や明治政府の財政を支えた国内最大の金銀山として、これまでに道遊の割戸、佐渡奉行所跡、御料局佐渡支庁跡など7か所の遺跡が平成6年5月24日に国史跡に指定されています。

この度、平成21年7月23日に鉱山用石磨の石材を切り出した吹上海岸石切場跡が、平成22年2月22日に近代の旧佐渡鉱山の施設群が国史跡に追加指定されました。



北沢地区遠景

近代遺跡

江戸時代、幕府を支えた重要な財政源であった相川金銀山は、明治2年(1869)に官営佐渡鉱山となると、外国人技術者を招いて西欧技術の導入を図る近代化が進められ、明治10年(1877)には日本初の洋式堅坑となる大立堅坑をはじめとした近代的な施設・設備が整えられました。

明治18年(1885)、鉱業の第一人者であった大島高任が初代鉱山局事務長として赴任するとさらなる近代化と拡張が進められ、高任堅坑の建設、選鉱場の新設、北沢製錬所の拡張、大間港の整備が進められました。この際、北沢製錬所を拡張するために削られた斜面の残土が大間へ運搬されて、港湾の埋立てに利用されました。また、大間港の堤防や護岸は人造石(たたき)による工法で築港され、埋立地には数棟のレンガ造り倉庫が建設されました。

明治22年(1889)には、皇室財産として御料局の所管となり、明治29年(1896)、鉱山が三菱合資会社へ払い下げられると、さらなる設備の拡張・充実が図られ、併せて県内初となる電力設備として水力発電所の建設が行われました。

昭和期に入ると、戦争の影響で国策による金の増産が始まりました。現存する多くの建物はこの頃に建てられたもので、なかでも昭和13年(1938)には北沢に東洋一といわれる鉱石処理能力を持つ浮遊選鉱場が建設されました。戦後は昭和27年(1952)の鉱山大縮小による施設の縮小がありながらも採掘は続けられましたが、平成元年(1989)に操業を中止しました。

旧佐渡鉱山施設群は、相川市街地及びその周辺部



大立堅坑櫓

の大立地区、間ノ山・高任地区、北沢地区、大間地区と、市街地から北へ約13kmにある戸地川流域の戸地地区に分布しています。

今回指定された地区・施設と鉱山での主な役割は、下記のとおりです。

大立地区：「採掘」

大立堅坑、大立堅坑捲揚室

高任地区：「採掘・選鉱・運搬」

道遊坑、高任坑、佐渡鉱山機械工場、高任粗砕場、貯鉱舎とベルトコンベアヤード



間ノ山・高任地区に残る施設

間ノ山地区：「選鉱・製錬」

間ノ山^{とうこうば}搗鉱場

間ノ山～北沢地区間：「運搬（鉱車用トンネル）」

諏訪^{すわ}隧道、神明^{しんめい}トンネル

北沢地区：「選鉱・製錬・火力発電」

北沢火力発電所発電機室棟、北沢青化・浮選鉱所、北沢浮遊選鉱場、50mシクナー、インクライン



北沢浮遊選鉱場

戸地地区：「水力発電」

戸地第2発電所

佐渡鉱山のように、採掘・選鉱・製錬・積み出しに至る鉱山操業システムに関係した一連の建物が残されている場所は、全国的に見ても類例がなく、学術上貴重な遺跡であるといえます。今後、これらの文化財を将来にわたって保護し、後世に残すことが必要であると考えています。

吹上海岸石切場跡

鉱山都市相川では、傾斜地に宅地を造成するための石垣、神社の鳥居や寺院の墓石、鉱石を砕くための



吹上海岸石切場

扣石^{たたきいし}や石磨^{いしうす}など、大量の石材が使われていました。このため、市街地の周囲には多くの石切場があったことが判明しています。

国史跡に追加指定された吹上海岸石切場跡は、相川市街地の北、下相川地内の海岸段丘崖下の海岸部



石磨（上磨）

にある、鉱山用石磨の石材切り出し場です。この地質は球顆^{きゅうかく}流紋^{りゅうもん}岩^{がん}で、江戸時代から近現代まで採石が続けられていました。

遺跡は海岸線に沿って露出する岩場にあり、約250mの間隔をおいて南北2か所に分布しています。いずれも岩場に石材を切り出した痕跡が容易に確認できます。北側の石切場跡では矢穴^{やあな}（石を切り出すために打ち込まれたクサビの穴）跡はほとんど見られませんが、方形に石



石切場に残る矢穴

材を切り離した痕跡やのみ跡が確認できます。一方、南側の石切場跡では、北側に比べ石材を切り出した痕跡が集中して見られ、場所によっては標高20m前後の崖が、石材の切り出しによって掘り下げられて、地形が大きく改変されています。周辺部には矢穴跡やのみ跡など石材を切り出した痕跡が無数に確認できます。また、沖の岩礁部や波打ち際でもこのような矢穴跡や石材を切り出した痕跡が確認できます。

宝暦3年（1753）頃に編纂された『佐渡相川志』によれば、慶長年間（1596～1615）に越中国（現富山県）より五郎兵衛という石工頭が来島し、陣屋や山師の屋敷の石垣を築き、石細工などをし、次第に弟子が増えて、下相川に石切町ができたといえます。この石工たちが、やがて石磨の製作を始めたと考えられており、ここで大量の石磨が加工されました。現在でも、相川の街中や山中の鉱山遺跡で石垣や庭石に転用されたものや壊れて廃棄されたものを目にする事ができます。

このように吹上海岸石切場跡は、江戸時代の金銀山において必需品であった石磨を供給し続け、その活動を支えたきわめて重要な遺跡といえます。



石垣に転用された石磨

世界遺産の専門家が 佐渡金銀山遺跡を視察しました

平成21年8月3日から6日まで、英国イングリッシュ・ヘリテージ世界遺産・国際政策担当責任者のクリストファー・ヤング博士と筑波大学大学院世界文化遺産学専攻教授の稲葉信子博士が、相川金銀山・鶴子銀山・西三川砂金山などを視察しました。



中央 ヤング博士 右 稲葉博士

両博士からは、「全般に遺跡の保存状態が良く、価値の証明に必要な絵巻なども多く残っている。特に相川の採掘・貯鉱・製錬・輸送などすべての鉱山システムが残る景観は素晴らしい」との評価とともに、「佐渡のセールスポイントは金銀を長期にわたり産出してきた点である。今後は、どの資産がどのような“顕著な普遍的価値”を持つかを明確にする必要がある。他の鉱山との比較研究も必要だ」と、世界遺産登録に向けた遺跡の価値づけや今後の取組などについて指導と助言をいただきました。

佐渡市世界遺産登録 推進本部設置

佐渡市では、佐渡金銀山の世界文化遺産登録に向け、全庁的に問題点や課題を共有し一体となった取組を推進するために、平成22年2月17日に庁議メンバーを中心とする世界遺産登録推進本部を設置しました。

また、推進本部の下に担当者による担当部会を置き、個別課題への迅速かつ効果的な対応を行います。

歴史的町並みの保存、世界遺産保存・整備、管理体制、情報発信、来訪者の受け入れ体制（宿泊、輸送システム）など多くの課題に取り組んでいきたいと考えています。



調査・整備情報

「旧佐渡鉱山の近代遺跡」を整備しました

平成21年度、日本の近代化を牽引した旧佐渡鉱山の施設群のうち、北沢地区・大間地区の一部で整備が終了しました。

北沢地区は、明治期以降に佐渡鉱山の本部が置かれた場所で、北沢の工作工場群は、佐渡鉱山で使用する機械部品類の製造や修理のための施設でした。平成20年度の発掘調査で、明治以降の施設全容と当時の遺構が残っていることが判明しました。この整備では、昭和10年代の大増産時代の建物区画を表示し、発掘調査で確認された建物壁などを露出展示しています。



大間港



シックナー（右）と整備された北沢工作工場群

大間港は鉱山の物資運搬のため明治以降に整備された人工の港です。明治期に人造石（たたき）工法によって築かれた護岸が完成し、大正から昭和期にかけて、クレーン台座やローダー橋の設置など設備の充実が図られました。今回の整備では海岸に向けベンチも設置しましたので、近代の産業遺産と夕日のマッチングを楽しむこともできます。

「絵巻から見える佐渡金銀山」

平成21年12月20日、新潟市の朱鷺メッセ・マリンホールにおいて、国際シンポジウム「絵巻から見える佐渡金銀山」を開催しました。鷺流狂言「水懸舞」上演の後、国内外の研究者が佐渡金銀山絵巻の研究成果について講演するとともに、絵巻から浮かび上がる佐渡金銀山の価値について意見交換を行いました。約200名の参加者は、佐渡金銀山が世界に類例のない絵巻を持つことに感心しながら、講師の話に熱心に聞き入っていました。

◆鷺流狂言「水懸舞」 佐渡鷺流狂言研究会

◆講演



「日本の諸鉱山絵巻と比較した 佐渡金銀山の特徵」

鈴木一義氏（国立科学博物館理工学
研究部科学技術史グループ長）

佐渡が世界遺産として認められるには鉱山技術やその変遷を明らかにしなければならないが、絵巻はこの点で大きな役割を果たす。また、絵巻は当時の人々の生活を如実に示している。

「欧州における佐渡金銀山絵巻」

レギーネ・マティアス氏

（ドイツ・ルール大学
東アジア研究学部日本史学科教授）



欧州にも数多くの絵巻が伝わっている。佐渡の絵巻は日本の鉱山絵巻を代表するもので、16世紀以前の欧州の鉱山技術を正しく理解するために必要なミッシング・リンク、つまり失われたつながりだ。

「描き継がれた佐渡金銀山絵巻」

渡部浩二氏（新潟県立歴史
博物館主任研究員）



絵巻は数年ごとに交代する佐渡奉行などに対し、金銀山の複雑な工程を説明するため1730年頃から描かれ始めたと言われる。経営の変化や技術導入に伴う変化が描かれており、文献ではわからないことを比較・検討できるたいへん優れた資料である。



◆パネルディスカッション

「絵巻から見える佐渡金銀山」

パネリスト…レギーネ・マティアス氏、渡部浩二氏

橋本博文氏（新潟大学旭町学術資料展示館長）

萩原三雄氏（帝京大学山梨文化財研究所長）

コーディネーター…鈴木一義氏



鉱山内部を活写した絵巻は佐渡が他鉱山を圧倒している。水上輪など排水技術の変遷が見て取れ、世界的にも一級の資料である。今後は鉱山排水具と農業用排水具との関連も調査したい。（橋本氏）

鉱石を採掘し精錬を経て金銀を抽出する技術が絵巻に詳しく描かれている。絵巻から読み取れる鉱山技術をはじめ、社会・風俗まで含めて佐渡の調査成果を発信していかないと、日本の鉱山研究はできない。（萩原氏）



欧州における鉱山学校に代わるものとして、日本の鉱山絵巻は技術の普及に重要な役割を果たしたのではない。佐渡の絵巻は16世紀以前の欧州における鉱山技術の検証にも役立った。（マティアス氏）

絵巻からは技術だけでなく生活文化の変遷や女性の活躍なども明らかにできる可能性がある。佐渡の絵巻の描き方や技術の説明の仕方が他の鉱山絵巻の模範にされたと思われるので、この点を今後検証したい。（渡部氏）

鉱山には医学や和算も必要とされた。佐渡には日本で一番古い和算書の1つがあり、これらが鉱山の技術水準を示している。世界遺産を目指すことは、自分たちが自らの地域にあるものをきちんと理解することから始まる。（鈴木氏）



平成22年度 講座・イベント情報

5/15(土) 佐渡金銀山遺跡の現地見学会

世界遺産連続講座(新潟市/県立生涯学習推進センター)

6/12(土) 第1回・7/31(土) 第2回・8/21(土) 第3回

世界遺産連続講座(佐渡市)

6/26(土) 第1回・7/10(土) 第2回・8/7(土) 第3回・

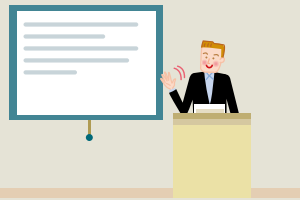
9/11(土) 第4回・10/2(土) 第5回

※佐渡会場での講座は新潟市で開催するものと同内容が含まれます

8月 親子で歩く世界遺産

8月 鶴子銀山現地説明会

10/ 17(日) 世界遺産国際シンポジウム



書籍紹介

『黄金の島を歩く—佐渡金銀山の歴史と文化—』

定価 1200 円 + 税 発行所 株新潟日報事業社

佐渡金銀山の平安期から現代に至る歴史を巡り「日本の縮図」と称される島独特の文化を訪ねる。

『佐渡を世界遺産に』

定価 2000 円 + 税 発行所 株新潟日報事業社

金銀山400年の歴史が伝える鉱山遺産を軸に、豊かな文化と美しい自然が残る佐渡の世界遺産登録に向け、各分野のエキスパートが多角的に「佐渡の魅力」を語る。

『日本の近代化を支えた佐渡鉱山』

定価 1200 円 + 税 発行所 株新潟日報事業社

平成19年9月23日にアミューズメント佐渡(佐渡市)で開催された「佐渡世界遺産シンポジウム」の記録。

平成21年度の活動状況

講座・イベント

2/21-4/19 金GOLD黄金の国ジパングと佐渡金銀山展

4/11 講演会「佐渡金銀山の開発と支配」

4/25 金銀銅サミットin佐渡

6/6・7/18・8/29・9/26 世界遺産連続講座(会場 新潟市)

7/12・8/8・9/19・10/31 世界遺産連続講座(会場 佐渡市)

8/9 世界遺産親子ツアー

10/3 相川の町並みを考える集い

10/18 天地人リレー講演

11/7 佐渡金銀山遺跡現地見学会

11/29 新潟大学留学生お国自慢世界遺産発表会 in佐渡

12/20 国際シンポジウム「絵巻から見える佐渡金銀山」

随時 小中学校出前授業

随時 地域出張説明会

パネル展示

9/4~7 2009佐渡国際トライアスロン大会

9/26 とぎめき新潟国体(第64回 国民体育大会)

10/10-12 とぎめき新潟大会(第9回 全国障がい者スポーツ大会)

10/18 県地域振興局フェア

10/31-11/1 真野地区文化祭

11/7~9 ネスパス物産展

11/21-22 アイランダー2009

3/1~29 朱鷺メッセ befcotばかうけ展望室

視察

5/12-13 県教育委員遺跡視察

8/3~6 クリストファー・ヤング博士ほか遺跡視察

8/23-24 歴史的まちなみ視察

(新潟県まちなみネットワーク)

12/17-19 レギーネ・マティアス博士遺跡視察

3/3~4 東京文化財研究所ほか遺跡視察

調査・委員会

6/26 佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会

7/1 文化的景観調査専門部会①

9/3 文化的景観調査専門部会②

9/7 遺跡・建造物調査整備専門部会①

2/16 遺跡・建造物調査整備専門部会②

2/19 文化的景観調査専門部会③

2/17 佐渡市世界遺産登録推進本部会議(2月設置)

9/24-25 近代化遺産調査

10/7-10 佐渡金銀山絵巻・佐渡奉行所跡出土遺物調査

9/24-25 佐渡金銀山遺跡調査

10/7-10 佐渡金銀山絵巻・佐渡奉行所跡出土遺物調査

